へ 5
4723
1

へ 5
4723
1

類題発句集

五

門へ5
号 4723
巻 1

昭和十六年一月十一日寄贈
尼野貴英氏

夢の庵の雨君つれづれ伏ひまの人の語根よ
せうふ歌第代色紙はきを去歌よさわらと書く
たつまし蜂の月夜夜こゝろ遠にたゝく色紙を
うし我いかゝかゝるまと宮ふに古よ發句我引
おくへゆまこは客ぬそゝと興ある事物ゆそれ
四季にうう歌園つ松の正月乃毎くうり佛名
蝶掃の沙夫君くさく雨くゆうこあう歌句れ
化俤と咲そこゝへて物ひ歌たるう勢起う

今はいとゝ人の見へかゝるに我つゝみ[illegible]句さへ
海へとゝかゝる梨出来[illegible]歌を見のそてをうゝ歌く
あつ事堂う拍あらはやゝ月れのてひ見[illegible]歌
代比圭林何の[illegible]男[illegible]見人さく参り給へ
得分ゝ[illegible]人ゝ[illegible]歌和八よ人寸
面白[illegible]ふ[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]顔のふを
[illegible]ゝ城[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]句[illegible]撰ふり
何ゝ後[illegible]見及[illegible]れ[illegible]

議[illegible]恐[illegible]あ梨[illegible]ゝ[illegible]俗北高人[illegible]伝弦
[illegible]見[illegible]ん[illegible]ゝ[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ハ
さの[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]歌[illegible]句集[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]頃[illegible]明和七[illegible]ゝ[illegible]冬
十二月都[illegible]東山園崎の屋[illegible]丹庵の窓[illegible]
雪[illegible]見[illegible]に見東[illegible]蝶[illegible]ゝ[illegible]

凡例

此集題の仮名を考へ證句或ハ古人の句或ハ自己の作に載すれ共人名句の作へ
あ歌も歌の仮名たゝ有ハ或ハ載ス今の人ハ句を
その歌ハ句の作ハ載る或ハ有ハ
四季の題ハ事無ハ古人の御筆を取て入る

歌ひ或ハ或ハ古人ハ場所ハ或ハ或ハ古今抄
ハ或ハ拾遺ハ或ハ物語ハ或ハ墨等の作ハ或ハ或
考へ題の取捨ハ或ハ
四季の歌ハ中附句の更ハて歌句の歌ハ
ハ或ハ或ハ取捨ハ又四方ハ仏馬節今の歌
事の人ハ或ハ或ハ荒ハ夕寒食の歌ハ
呉国の泊ハ或ハ或ハ文書ハ或ハ門功徳経の作ハ
或ハ有ハ今ハ無ハ歌事ハ或ハ

その姿情我志ゝきれハ載ものゝ

四季の歌の中諸社の神事法寺の法事の歌を

悉く證句我拳たいゝ句ハ多くして遠き國の

事ハ〻ゝ其所柄と志きしに載ものゝ京ゆゑ

まれ〻ゝ祭及ひゝ歌業種の御伝歌馬の伝伐

等他國ハゝゝ多二月巳の伝ハ筑摩祭等の古く

ゆ及ひゝ歌一二ハ伝伝我拳ゝ多ハ今ハ

伝我志ゝ

四季の歌乃中生数植物の類ハ古今ハ我ハ

發句なる我ゝ題ゝ我志ゝて我句を志るきれ

後の人志ときかんゝ事を志

四季ハ歌の名目ハ事 文ハ漢名字義をたゝきゝ次

ゝ俗諺の志ハ事ハ俗談ゝ話ゝ分ひて

義入ハ吹と云志れ出志ゝ我ゝ

四季の歌ハ分ハ神祇釋教恋雜ゝ述懷懷舊

羇旅名所等ハ志ハ句我志ハ我ゝ難の所と

類題發句集春部

正月

元日

元朝や永代の事も祝ひ哉　伊勢　守武

等も木も国出度そうしけり　京　貞徳

数多歳人を絶つ〻今朝の春　難波　宗因

元日や何よたくへん数わらは　江戸　忠知

元るに田ことの日こそ祈れ　伊賀　芭蕉

元日や寂りの大力常りん　京　玄来

元日や嘆く若者わうこ祭　江戸　嵐雪

花の春　江戸　専吟

花の春陸子吟ずる歌堂哉

けかれて小あさしいつくも花の春　近江　去来

去来ふつや蜜柑まで戸ぶ神矢の根　駿河　許六

はるふみや捨しへ根に出そう　野坡

春立くまくまと九日の飛山うれ　尾張　芭蕉

ぬれたやう大士器のまれ日新　伊賀　任行

梅ふ春の新り立ふ初いば　近江　支考

ふみ新ゆ物り忘の旅ふろ　可風

はのくしを爲ふ為ゆ忘の春　野坡

初のふふふふふふふふふふふふ　摂津　馬明

立春

初日

初鶯

初雁

初夏

初夏や屋ふ代ふ君ふ代

ふふ夏や新ふ夏ふ日の光　安室

酒ふふ制ふみふ海ふふやし　百川

学ふふ花ふにはやあふれ　伊勢　望一

水ふ徳ふ牡丹とふふ神ふ民　京　外丹

ふふ柳や妹ふ小綾君ふふ望　江戸　一蜂

ふ柳や妹ふ小綾君ふふ望　尾張　夕道

傘ふ蛍ふ如ふふり祭元ふ柳　京　吻軒

蓑ふふ人君這入ふ川君雲　伊賀　太来

月雲のふ笑ふふふふふふふ　江芳

松ふふ新院ふ君ふふ清

いの竹　其角
蓋朶　嵐蘭
楪　頓世
かさら縄　立圃
のこり炭　可全
かさら海老　移竹
若水　眠魚
玄梅
武仙
鈴波

若水や老を忘れぬ箱井つ
和水や去るも近のとしの春
大神くも玄孫の表家の白れ
新煮参や千代の数のく花れ
国花花きれ暗も参る雑煮ル
きくを先よ梅の花の色白ひれ
蓋かくめ枝の色ることを国生れ
元の歌ひきくれ加茂俳
へすけかや屠蘇九和ろへ次戈
屠蘇きしてふくれ姫の子

伊勢　乙由
大和　吉山
尾張　防川
丹後　きく
江戸　自悔
筑後　如行
肥後　北枝
尾張　巴雀
江戸　荷号
立志

大神
新煮
蓋国
流餅
屠蘇

太箸　　尾州　卯七

蓬莱　　加賀　秋之坊

食積　　江戸　芭蕉

掛鯛　　江戸　山店

野老　　伊勢　岱水

かち栗　　尾州　泥足

串柿　　尾州　和楊

稚儀　　江戸　治国

　　伊賀　長英

　　京　一思

橙　　江戸　文鳥

にし者　　出羽　千翁

数の子　　芭蕉

庭竈　　甚角

　　加賀　千代

福来　　乙由

初暦　　伊勢　宗雨

　　山城　宗鑑

書始　　芭蕉

馬琴姫　江戸　清川
手法免　近江　木導
松葉姫　八　昌房
若衣姫　尾張　旦藁
玄旨
山蜂　江戸
養波　伊勢
今徳　京
菊中　南都
友之　江戸

書て先や柳杉の庭八十文字
新初りて下まのあるやつの蕊
貸うゝ初るも国さゝ高はめ
毎〳〵赤小豆り豆の粉り色
若衣姫　毛の張とも粉り先ゝ
毋方蕊　放免つゝや葛志姫
福菓の蕊ゑいとうゝ若衣姫
ゝ先の波の敷や松さやゝ
高砂や大おれ新さくゝうゝ先
ゝ蕊の仕入て汎捜先

松葉子　嵐蘭　伊勢
風姫　温故　江戸
琴風　伊勢
雲木　京
立圃
琴風
船男　出雲
和水　安芸
巴静　尾張
言水　京

高姫
柳下
鄉初
蕊周
須磨姫
若緑
多玉

初市や豆よ清水さの若菜船
芳市や若菜も緑水蕊ゝり河
一ゝ色の松さゝ先や柳杉巳
寸紙を先や解及氷を引起し
ほちのゝ実入と祝へ葛ひゝ
京子ゝ引出杉せん花迄先
月蕊ゝ若ゝ月ゝ俊ん初酒屋
新緑ゝ師走のゝ月ゝ色
若緑や晴若のまて掛よ寄ゝ
ゝ玉ゝ柳打ゝ小節の毎ゝ

万歳

太忠蔵　江戸　宗陽
鳥追　京　松葉
春駒　尾張　一井
猿引　玄来
初春若菜　山城　飛明
愁歩　但馬　柳亀
猿楽　京　巴静
小雲　近江　秋月
鯉遊

ゆり〳〵　手球
羽子板　孫丹
やり羽子　嵐雲
破魔弓　利牛
賀引　木導
振袖　松舎
其角
李由
雨青
朝竹
京　皇雪
但馬　孫丹
江戸　嵐雲
伊賀　利牛
木導
松舎
近江　其角
李由
伊賀　雨青
朝竹

ゆり〳〵やあるは孫乳の枕小老
振袖と行まに拳て手鞠れ
さこ松やたは国変うち暫て
ゆり羽子やゆく春ちぬ妹うち
やりこやあこやは交う多女房
と国ちや乳母うま孫さ二人張
賀引ゆり姫牛の角弦たくく
宝引よこ夜を原ぬ敷の猪乳
賀引やかてあうしぬ己とも
稲つ敷や亜方の方へ枕ちん

御降
年男
水祝
子の日
小松引
若菜

おきうや十日の雨の降ち花
松の下幾千代ぞ歌ふ男
吟し男子秋楽を習ひ
板の月に舞ひ歌ふ水祝
ちはやぶる女房打ち水いとひ
一生のうしの保やあ祝ひ
ちうら春を待ち初子の日
嵯峨へ出て引出る子のほ
迄の奥植ゑ初て小雲引
崑崙よ若菜の若菜ぶ

京 暁山
、重軌
尾張 弁慶
京 春澄
筑後 甚角
、祇川
公来
尾張 也有
、白尼
地蔵

一ぶ毛ぶり一度摘ぶ薬ぶ
七草ぶ若菜ぶ生ぶ若ぶ
若ぶ若菜ぶ若菜ぶ若ぶ
雪ぶ畑ぶ出ぶ芽ぶ畑ぶ
摘ぶ若ぶ端ぶ若菜ぶ
行ぶ月ぶ端ぶ雪ぶ
破ぶ若ぶ若菜ぶ毛ぶ
ぶ風ぶ踏ぶ和ぶ吳ぶ
情ぶ摘ぶ摘ぶ人ぶ若菜ぶ
ぬ風ぶ水ぶ海ぶ去ぶ

、
尾張 去芳
、
伊中 楚水
滾化
天保 路通
加賀 惟然
江戸 万子
尾張 秋風
鄙水
尾張 汽雪

蕨雜

[illegible]くて童分てまゝ[illegible]蒙蒙
[illegible]くく水より七夕[illegible]
[illegible]は[illegible]
[illegible]の太さとあく男
[illegible]て頁[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]白[illegible]蕨[illegible]
[illegible]
[illegible]の蕨[illegible]
[illegible]の中

新潟 素山　乙由
加賀 希因
尾張 其考
上州 一竜
其角
伊賀 猿雖
京 我黒
北枝

蕨[illegible]
[illegible]
七くさや次[illegible]
[illegible]蕨[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

蕨粥
福酒
初寅糸
木芽漬
春下

江戸 景道
八桜隠
京 此葡
難波 芙雀
江戸 弁竹
京 見示
近江 関入
山城 貞位
宜石
其角

具足後用
左義長

綱引
小豆粥祝ふ
粥はやら
粥杖
薪抜等
雲の門

雪ちらくへうれしく春おぼし　京　風國
伊勢湯殿の読みはじめや具足櫃　許六
ひのもとやたゝきもやきも左義長　京　李吟
左義長や横雲かゝるてのはら　我鶴
綱ひやや若よ浦〳〵ふ神の色　産化　亀遊
粥後のあつにあや粥さらら　江戸　冬柏
かゆはえよ死ぬるてうれしら　京　三敲
於比奈やうり拍役や和田の若　江戸　孟遠
雲取くく事の殺ぬよ某みれら　江戸　不角

廿日正月
御忌

木槿の炬燵
義入

雪ちらくへ松の内　江戸　政和
正月ふ廿日ゆ春ふく報恵ふ　京　嵐雪
松ゝ路耳ぬきくへ〳〵ゆ長の徒　京　其該
さゝ炬燵徒の寺や御忌の子　陸奥　玄高
掛ふくく木槿の炬燵の白ゝ乳　素心
雪又ゆや牛合点ゝて大系近　近江　其角
やゝゆやゝ炬燵ゝ炬燵ゝ　近江　里東
義入やゝ矣さゝ義入ろ　江戸　冶天
ゆゝ入の多夜だのゝ文はり　江戸　恐尺
雪又入りてのさゝゝて火焼ル　蓮之

福寿艸

木の芽

[illegible]や母へ二月の宮詣りへ
[illegible]又へや如く子共摘ゑ
福寿草[illegible]に日出度抱さ[illegible]
福寿草は咲抱と搗へり
能中やし[illegible]の天也る木の芽
そやさ[illegible]く咲る捐る木のめ[illegible]
義重の[illegible]て居る木の芽
肖柏の[illegible]れ[illegible]る木芽
木の芽[illegible]と[illegible]る士の歌
[illegible]木の[illegible]也[illegible]れ芽[illegible]

伊勢 我半 京 素流
琴風
近江 文素
摩洲 露治
尾張 露川
京 素流
鍋 [illegible]
[illegible] 雪芝
[illegible] 遠

下萌

下萌や屋[illegible]
子[illegible]や松[illegible]
下[illegible]や[illegible]下[illegible]
生[illegible]や[illegible]
[illegible]や松[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]や神[illegible]
[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]
[illegible]や安[illegible]

[illegible] 二川
戒陸 北溟
[illegible] [illegible]
伊賀 松舟
此筋
南都 鬼市
大坂 己百
[illegible] 風脇
伊勢 杜菱
温故

苔立

若草

梅　汝子氏乞集

うぐひすの入てしばらく朱ありけり
数ならぬ身も君が子の子にふり
梅が香にのつと日の出る山路かな
山里は万歳遅し梅の花
なにの枝のさかりや梅の花
梅の花先ふる事よくてあはれ
行枝あり麻やかよふ妻の花
堅よ咲く横ありつ身むかし梅の花
鶯にはさうせいら梅のもれ
痩せても香は咲く風のにほひかな

越中 汐文
かゞ 倚翠
芭蕉
、
其角
来山
支考
近江 尚白
路通
李来

同じ立ちて正月もやし妻の花
梅が枝の鳥や火焼を去り来る
立ちなる梅木にさひら梅の花
鶯も小首ひねりや妻の花
妻一つ見ん一輪や花のあたりかな
咲先咲くや川の野の辺の枝の葉
こぼれても咲き掛けて梅の花
枝折りて挿すてや散るふれ
妻の花のかの月折りや妻
暮ならぬ人とや見ぬも

猿雖
浪化
難波 舎羅
諷竹
嵐雪
野坡
、
去芳
惟然
桃隣

のうら海とのうへて春さめ春の雨
休和尚の小ふ間や梅かゝれ　菊川
梅の花おもふ事よいろめ糸毛ゟ分　雪良
却光のやゝの里ゟうしの角　越人
枯くハし梅ゟさよ扱光のちれ　勾空
久しくて情ゟわりう春ゟ花　伊古
何ゟ咲ゟ月ゟ梅ゟ梅の華　桃化
寒若してやゟみよ咲や梅の花　ゟ人
十八町ゟ春ゟ里ゟうら梅ゟ忘　雪九
春咲やゟ行扱ゟ仏ゟよ扱ゟ　乙由
　　梅居

挿

河ゟ人ゟ春ゟ咲ゟ梅ゟ梅の忘　嵐七
春咲ゟ梅ゟ咲ゟ仏ゟ梅ゟ春ゟ春ゟ　千代
梅咲ゟ春ゟ咲ゟ仏ゟ梅ゟ春ゟ花ゟ　五筑
八ゟ百ゟ春ゟ百ゟ春ゟ西ゟ春ゟ　芭蕉
傘ゟ押ゟ分ゟ春ゟ梅ゟ春ゟ那
風ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ
ゟ山ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ挿ゟ
ゟ山ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ柳ゟ
風ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ柳ゟ
ゟの春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ春ゟ

不角　木因　杏来　其角　女考

深水の月ゆりあをを極る
海くゆくく舟の跡の表の那
吹こゑ蝶の花をる柳の路
拍子海を振るゝ山の毒る
引らをく水かゝるゝ表ゝ
人ゝの市ゝ人ゝ表ゝ飛ゝ
海人釣ゝ日のあゝる極ゝ
水光の眠り家ゝゝ釣ゝ那
陳子ゝ月の家人の表ゝ
川ゝ海ゝゝゝ見ゝ表ゝ

類波 由平
京 心月
加賀 一笑
仙亭
尾張 文子
浪化
飛坡
琴風
江戸 素龍
此節

風のゝく方ゝ舟ゝしろの春ゝ
面をのさゝゝゝゝ風の極る
又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ極ゝ
保和や表の法ゝゝゝゝ
水ゝたゝゝゝゝゝ春ゝ
表直ゝ面の海ゝ表極ゝ路
一表ゝ極ゝゝゝゝ柳の那
花ゝゝゝ方ゝゝゝゝ極ゝ
那ゝゝの人ゝゝゝ春ゝゝ
表表や二ゝゝ三ゝゝゝ

飛水
加賀 牧童
小春
蘭子
江戸 山川
三河 桃後
京 助叟
尾張 乙由
木兒
極居

蓴菜　京　風之
蓴の葉　摂津　乙紀
嫁菜　江戸　秋瓜
水菜　近江　茶壺
蔵菜　摂津　新城
芹　紀伊　洲本
角く芦　信濃　一字

春柳や花さく水もち南し紀
給春くさ〳〵遠へ〳〵春の風
さん坊と水ゆ漬ゆ柳〳〵
伊ゆ〳〵く二月よ来〳〵春の和
青柳や如来伝ゆ春の色
冴解ゆ泡ゆ咲や蕗のゆ〳〵
坪ゆ〳〵乃ゆ山の乾さや蕗の葉
その白ゆ孫竭ゆてもゆ〳〵ゆ葉
ゆ〳〵弟に為ゆく春ゆ乃嫁菜ゆ
二葉ゆ乃ゆ八〳〵やゆ〳〵ゆ紀

蓴菜　江戸　東流
水菜　摂津　馬六
蔵菜　紀州　尚丘
芹　江戸　丈草
角く芦　越中　拳白
十文　紀州　乙語
猿蓑　類波　二惟

胡ゆ生ゆく小鳥や泡ゆ〳〵ゆ蓴菜
ゆ〳〵乃ゆ蓴菜　春和ゆ蓴の葉ゆ
ゆ乃ゆ〳〵と芦ゆ京の水菜乃

我弟と鍬の逆〳〵根芹ゆ
ゆ〳〵乃ゆ根芹ゆ田芹ゆ
芹ゆ〳〵や芦ゆ〳〵ゆ逆ゆ鶏の沼
芦菜ゆ乃ゆ教ゆ鍬の根芹ゆ
川尻や淡城や芦ゆ芦の角
ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ沼のゆ〳〵芦や芦の角

松の若緑

のびゝとゆう海の雲のみどりかな　京　滴水

酷き道の小雲や若みどり　凉菟

思深こまつ松のそこちやあつ緑　古芳

波立や松のうゝ松葉みどり立　緑愛

うゝしきもうゝ笠ぬぎうへて雲の忘　長崎　麿元

夕風や雲の若ちる花畠　伊賀　冬李

あやめ人嫁菜よりはく干大根　京　信徳

妹うの雲の若丸白ひや河大根　駿河　英豆

鼓うゝ京の雲や形の深菖　北溟

河うゝ代菱う毋の形隅ゝ　京流

春六

蕗薬

山椒皮

海苔

萬

書風ゝ芋米おさやたを蕗

蕗薬ゝ池ゝ松のちりしゝと　京　吾朱

山椒のかゝく皮さゝく花世ゝ　路通

切れや伊ゝ雲ゝ海苔の味　江戸　其角

蕗ゝ欠なゝ仇や後のゝ　下総　素丸

のゝ取やさゝくへた波ゝ立ゆゝ　奇石

書形や池の色まて雲の色　奇淵　一幹

うゝ蕗ゝ雲ゝ園松の色の笛の書　京　貝室

萬雲ゝなけた伊ゝ蕗ゝ　松浦　発句

うゝ雲ゝ雲ゝ雲のゝ雲の赤の　芭蕉

邑蕉
荷弓
毛角
丈手
玄朱
文彩
木面
肥坡
嵐雪
北枝

如行
天流 斜岐
利牛
北の 吉川
晋西
惟然
十丈
伊勢 及朱
城中 浪化
林和

石千鳥

水雀鳥

白魚

[illegible]

元禄 童子

歴元

乙筋

尚志

賀 其角

丹後 義水

文象

京 猿蛇

江戸 員隆

抱風

干鯉

鯉

鱠

魚氷と上る

鶏魚と祭

春風

[illegible]

白魚の[illegible]

[illegible]

一升[illegible]

[illegible]

鱠や小へ[illegible]

魚[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄 角長

京 猿蛇

獨始

白雪

其角

山誌 里充

絶句 孤松

丹後 跨山

芭蕉

木導

雲解

春風や三保の松原清乃浦
矣の点すゑ乃も霞ける
筑子の尾よ春風ゆく日新し
とろ〻の声や汐の根ゝ松の音
関吉ゆ張人ゆ乱〻春乃風
春かぜや布よ水まく小石原
おきゝひの雲ふゝや春の風
雲ゆ水ちゆ乱ゆ〻春の風
春風ゆ波ゆ乱ゆ〻栗の枯葉少
雲毎や波へ出〻下駄の音

宛英　許六　尚志
近江　潘川
江戸　莫太
加賀　政白
伊勢　春湖
越中　康工
江戸　保爽
江戸　治徳

雲解や新の割木の乾
かゝ乾ゆ雲解少
雲ゆ乱ゆ仲川越川来乱
雲毎ゆ雲ゆ乱ゆ〻聚篠原
雲汁や結いの乱ゆ結ぶ
俤く〻て塔の雲乃氏乱
放部て畑越乃雲乃少
雲乃ゆ雲ゆ乱ゆ〻
雲の乃ゆ雲比氏の谷く〻
春のゆ雲ゆ乱ゆ〻春や新ゆ雲

雲汁
雲乃
残雲

武蔵　水雀
常陸　青雨
尾張　曙春
京　孔雀
伊賀　木志
乙物
毛角
近江　涼花
越前　正秀
越後　虚谷

春雪

春雪降て空よりまろく地に山に
見まくほしくて雪降る
春の雪雨かと思へば人目多き
下前の糸花や雪の雪
うたゆかや梅の枝に下枝の沈
羽子板の箱をうけて春の雪

伊賀 兎田
京 君仲
尾張 嵐雪
芭蕉
去来
小枝

凍鶴

凍て解や一つの声に雲の
傘花雨に庭やふるのよ
凍鶴や去るとあらぬ梅の
芋り深うと無の氷の孔

戎橋 繁雨
支考
一笑
李由

水鳥

凍てけや去るの子鳥の吹く笠
旅子帰て次の入る氷の孔
なるるよ氷ふる野川の那
乗掛や枝の先
残雪の小鳥も出る水辺
ある水鳥
仮りかく数うく水石の氷
むかうと浦の枯木も霞
春雨小や見も梨山も朝の春
霞り梨 日枝点の山あり

京 一海
仙行
樂爰
近江 巴凱
丹後 夏蛾
天満 阿波
文水
枝風
芭蕉
言水

霞

[illegible]の麦や菜種や朝うゑて
[illegible]て来ひく[illegible]
[illegible]ん立枝もうるや和泉
仲り帆の拝[illegible]
[illegible]ふ[illegible]来る[illegible]
[illegible]の立かうてや[illegible]
帆戎[illegible]輪[illegible]朝[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]や[illegible]
[illegible]我[illegible]後[illegible]

[illegible]貢
荷ノ
布田
白ヒ
[illegible]酔
加賀ノ
すゝ又
八
[illegible]川
丹後
[illegible]布
[illegible]後
坐泉
京
子風
[illegible]

陸奥

長岡

[illegible]の[illegible]
[illegible]
長岡[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
長岡[illegible]
[illegible]

近江
木部
三河
杜鵑
利牛
伊勢
一有
碩亀
[illegible]
上野
南什
[illegible]
鶯園
京
秋風

餘寒

うくひすの折つゝしまる寒さかな　文考

捲てまた寝られぬ夜の寒さかな　江戸 仙化

彼岸おさむる一夜寒さかな　孤重

出代りまた日の長き寒さかな　乙由

咲かけて梅も張ある餘寒かな　文壽

冴かへる

背戸中よ冴かへりけり田螺から　大孚

浅みの今朝の氷水や袂の球　紀伊 泥足

佐保姫

佐保姫や夕べの雨への衣かな　嵐蟬

二月

二日灸

きさらぎや身をも据かねと据灸　近江 千那

執の悪きしぬ二月灸かな　伊勢 兎士

初午

初午や綾ぬくあへて御戸開　非坡

初午や下向に酔て長老殿　吾仲

はつ午や名をも梅ある赤の飯　赤 山只

初午や稲荷に化る衣かな　也有

歩きよせまなく鐘の枝かな　其角

釋奠

釋奠や改まるその日から　江戸 宗子

薪の能

地らしの能志ある薪の能　治徳

伶人の顔を背ける花かな　鍒麦

二月廿六日終法

漢義拍松明

涅槃會

水とりや寺の僧の皆出る
雪げの長炬の水花つめてさく
松明や鶴の来のなきつる
雲の入いのこの山風の山ちから
歌兵衛　孤雲の新あり極楽像
涅槃会や鶏を合せる孫殺の声
孫子の中さかしく寄る涅槃像
太郎　孫子あり涅槃像
乞食　涅槃の後新ぬぎ
木仏師　涅槃の後

芭蕉
玄梅
方山
耶明
季吟
芭蕉
伊賀　萩子
洞女
己百
許六

涅槃会や片肌脱漢力あり
孫子の代像にあり釈迦の立仏
梅さく〜涅槃像
涅槃会やさるのうの赤き日の光
大仏や横寝の代の入滅
老僧の死きつあり孫の像
手枕の楽さ寝の和尚さく
夏夜きりは光や二月孫の像
孫子の代云也涅槃と云光て尾も
涅槃の代云や西夜の薬取より

差枝　澍松
長崎　龙次
すさく
言水
生石　不玉
乙由
木尺
玄川
伊勢　入楚
江戸　止弦

小松菜雑部法

貝寄風

彼岸

念佛踊

盆踊

掩月

如月の熊のさ乳もぬきぬ法の乳

貝ぐもやちりぬくさくさ梅貝

梅さくさくさくへの弥陀の彼岸ぶり

何我乃さく彼岸の入日入たり

之金の法辨しる彼岸乳

うくらち人荒毛寒しひり人の船

乳ぬ今と念仏踊老梅杉ぶり

盆踊河やまの月見の中へ刈て其ろ

月ぶりぬ桂の高ろ月

法弁のとろ引ぬ杉ぬろ月

示 秋雪

鏡波 東屋

支考

蕉興

去何

丹後 李友

風雪

伝法 友梅

示 赤水

右根

梅の恋や毛付墨老掩月

ゆ風ぶり伝次とく梅ぬはま

梅迎とく梅ぬくまぶり掩月

乃風ぶよ長乃掩月和ぶ乳

乳たぶまぬ長ぬ乳ぬ掩く

葉の乳ぬ乳ぬさと梅ぬ月

麦うぬの入ぶぶてや腕つま

青空ぶも掩ぶ出ぬ乳ぬ今を

海棠の花毛ぬぬぶ掩ぶく

伝ぶ乳ぬ乳ぬてぬく掩月

芭蕉

小枝

言水

支考

玄来

露川

八

惟然

江戸 休我

助愛

[illegible]
[illegible]
何地へか水[illegible]に猪月
[illegible]赤へ樽の[illegible]
柚の[illegible]月
[illegible]
[illegible]
帆柱の[illegible]
六条[illegible]
[illegible]

[illegible] 摂津 徐寅
[illegible] 京 布周
[illegible] 京 范字
[illegible] 伊勢 春渡
[illegible] 梅路
[illegible] 唐元
[illegible] 可風
[illegible] 敗白
[illegible] 秋仏

出代

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 大阪 [illegible]
[illegible] 三河 采林
[illegible] 嵐雪
[illegible] 京 [illegible]
[illegible] 訪
[illegible] 江戸 李由
[illegible] 蕭山
[illegible] 木導
[illegible] 摂津 許六
[illegible] 朱松

出かたやのぶる傾城よかる傾城
ものいひや桂ありあまれる古歌のこと
お琴や三つのあんれを拍子切
かぜ君遠やの紅の紅ひき
出かたやちりくの雨こそ降
世代のうらをとへよ寄るとも
お琴にかくしかたく切と色
牛の乳のへくも出琴る男うれ
拭ハ〳〵左うもの琴の紅永
かまうるの柴の京式ふるやう

永友元 江戸
伊勢 亀翁
芳年
乙由
かが賀 つまを
紀州 伊勢
和泉 呉一
伊勢 二曲
芭蕉

陽炎

かけうの我肩ふり紙衣じり
仮炎やほろ〳〵ふる雪の砂
うの山ふるの波の如意寶珠
かまうしやの雲のやしろの月夜の雨
陽炎や春の君ふるの月つく
糸柳やにく紀蓑の人の長歌
うまうの小言紀屋ふるより
糸遊やきりてかく蓑根の上
ふるやしよ勅くや玄多の古蓑
仮炎やうの紙乃ふるの紙

六立方
許六
扶風
乙州
駿河 天垂
江戸 立志
乱絲
傘下

かはらふや川の淵にお蛇うち
の弟ろふ去の白ひや車道
西美やは横ゝ海しうの桶
加弟海ふや二地はく所ずす
鶯化して花の代あり始の壱
胡鶯や出るも戻るも小くうう
さや弟あきの屋はけうの白尾ル
ゝはへく冥と枝折や海ゝ枝
来ろ、ゝ都ゝ月さえつ海ゝ山
京清く大声あく鶯小ろれ

鶯化て始成
朝鶯
跡尾鶯
海ゝ枝
海ゝ山
鶯の嘴

范学
播广 清山
来 唖瓜
周防 枝系
かな 其爻
貞位
肥水
江戸 鶏口
先お 鼓蛇
桃隣

春廿九

嘴ゝやすこうゝ鶯ちうふ演き先
つゝ枝こうふ鶯や鶯たゝ巣の貸
巣をさこうふ鶯や巣ゝ一造化
去風ゝり巣きえ鶯巣花うれ
氣桐巣ゝり引ゝ乃るす先ゝ
鶯ゝ巣や巣一鶯の嘴ゝ梨
鳥の巣や鶯弾の立ゝかんが屋
蛇くゝうこ嘴さ恐ゝ蛇ゝ壱
何手ゝの赤ハたゝ巣さて蛇ゝ鶯
蛇ゝのこたゝうゝ蛇の声

鳥文
鳥の巣
蛇子

尾張 蕉公
京使 京房
山城 為有
安徳 可吟
下野 麦雨
江戸 芹月
芭蕉
涼菟
千那

僧童子ひとりつれて旅の浮世をいとひ
なれて新かく旅の旅の形
蓬の中を伝ふ蛍の影
ものすごしや書こふ旅の加賀の峠
静かなる鳴し波打の波の音
山の幅峠ひろけしり旅の人影
岩角にあらうてやきの色
ものすごしたゝ一のこゑ打つる声
何ぞ人くまの殺や夜の旅の
見しへの旅衆こゝの一点

玄来　其角
入山　飛坡
悟発　秋人
飛明　巴静
春三十

燕

秋の山は無しかなへく旅の老
加賀の国へ入る事をいとひ入る旅の人
板倉の関へ入る所の
峠の形く静さと旅の聲
形ばかりあるの蛍の声
世の事たゝ一あつり打ちぶ
何ぞ我紛さ四つ尾もく燕
蓬の下伏ふ蔭くて村つゝ笑
あるの風ふく流るやうに燕の
於かゝりしるくなるあつ形

湛園　千代
遠江　周竹
加賀　園曙
伊賀　桐雨
涼菟
芭蕉
越後　支考
公来

燕や子哉昔ふ月の俤ふし　舎銘

乙鳥や田を越り去るの記　[illegible]　那幸

女々かな化粧の中や乙鳥の先　木導

燕や猶来りて去まり日も　風竹

山の端たつもんをかへま入日かれ　壬南

巣籠中や見哉雛も飛つとめ　峯嵐

燕はありたく雲凡むる乙鳥かな　嵐蟬

乙鳥や巣の中せ寝乙　私語　[illegible]　抱の

雲に乾りありて帰る燕かれ　小春

玄鳥や何哉忘れく市かへす　乙由

燕の中の横さく去らぬ燕かれ　李葉

かれとのまりありさてを燕つ那　乙児

市路を表り通ふてさるかれ　英法　和中

巣や加りもと巣の影とれる　加賀　可枝

巣作りや明ける人りり帰く子山　當良

乙鳥てまくれるまへや松むらしす　惟然

千代を帰る枝をさる去むし巣　筑前　雨路

麦喰し了と燕を入とさるかれ　野水

帰りくと帰らかまてや小田の鷺　漁菴

帰る翼くあくてや秋すのや去次　文草

鳥帰

籠鳥

松毟鳥

帰雁

加へ敷てあれまろ屋と後のさく
帰る屋米つぎを古ひやすり
夜通しに伊賀城西丁のいそぎ
立さいく今や紀の屋伊勢の丁
たく立り麦の弟ちりかへる屋
何事と田螺まりくうへ敷ら
蛇礼こそ出文り引伊屋ぶ
きろ〳〵移尺ち表ちかへる丁
友減ちく常吉うかわ通ちかち
伸ちろ弟蛇と一人表立塔ぶ

太系　伊賀　宗法　江戸　大中
玄角　浪化　潘雄　荊口　子英　嵐雪　朱拙　旦藁　乱吉

雲雀

まろちりを同知度赤地屋
系市や拙も計尺ちりちり
出ち日城物たちやも雀ぶ
時〳〵ぶ飛ちひちぶ
久市も花日新迎へくへちり
孤兵衛ちつ戸ち雲雀
赤雲をちくかもちち雲花ぶ
き〳〵又陸子ちち日ちちり
三ち月を端へく茶ちち蛇ぶ
枝の木伐を訳ちち雲花ぶ

永尼　江戸　永　江戸
諸九　芭蕉　孤屋　之石　悟兎　いち　如泉　三子風　冰花

子やまうんわまうの花の子
春風にうかくくぶ雲雀かな　秋風
思ふ相ふ人の家の元ちらす　駝水
日中の春に飛ぶひとりかな　李雪
仰向て夏の空ひとつの雲　信中　除風
夕立を待の日和ぬきうり　加賀　乙甫
仰向て下ぶくもたくく雲雀ぶ　伊賀　杜柔
氣ふ下ふに蔵ふ仕度ひとりぶ　尾張　紀六
ゆ消ふ夜よ入ふ月雲花氣　千代
花の宣傳ふ鶯の琴弾ふ　山只

駒考

花の子

蝶

駒考此都ふ岩ひらり岩ふ上
ふ走ふいさむ山や駒の姿
花ふ咲ふ嵐ふ嵐ふ蝶
人の狀乃鶯ふ花の子　北中　その山考
ふ光子や姉ふ小鶯ふ橋　芭蕉
稼ふ此ふ名ふ名ふ　伊賀　尭貢
起ふ我友ふ人ふ蝶　撥市
ふ夢ふいふ蝶ふこて　湖春
酒ふ此人ふ蝶ふ　芭蕉
ふ蝶ふ　嵐蓼
乙狗　丸雪

ゑりかへし麦の畝やふ胡蝶かな　曾良

咲まりても翅まうちく胡蝶かれ　柳糸

とりうちと手折て花れハおち胡蝶　伊賀 鳳声

梢の子先んつれくき川こてゆかれ　千角

胡蝶くや風のふく日のたよりなき　成道

咲かしもも暮ゆゑ夜の胡蝶かな　出羽 木因

風乃乃有舞のちまちるまてかな　塵行

抽いもく花とすゝ胡蝶かな　柳居

道芝り落てもつよし風のてう　江戸 蓮之

胡蝶くや乞食人を付まくり　丁濤

蜂　　虻

何の草さしく蜂のち残るかな　玉池

胡蝶くや虎り女ゆゑ旅行れ　秋風

ありくや分川出て来る雨とり　江戸 烏明

胡蝶くや女子の道を衣やさ　千代

胡蝶くや軒ひよ絶えたる　京女 琴之

先へ出て傘の上舞ふ胡蝶かれ　摂津 巨石

山吹よ何哉いらいて蜂の声　魚日

蜂の巣や一ゆくくりえも　京 竜二

蜂ゐ菜や菊より冬ハ盗し蜂　浪花 杜游

虻の目の何ゝ懐しく子合点　正秀

蛙

作向うを去来てりりくや蛙の足
蛙の姿様子の彼きと見るも
乙鳥なるくうかくれば
格子くうる人の静る蛙の那
西の蛙鳴るり蛙の家
業弘花城角もよ対て蛙
あかしと蛙なくこの乃罪の数
峠立るく入れ吹ぬかれば
見入るくもるくあり蛙の
きるくと我頬ちる蛙の那

去方　名強
丈草
涼菟
素堂
李由
支角
嵐蘭

田螺

和歌の宮嫌ちるく蛙れ　山東　也地
久しく水底角戸よ蛙ら　珍碩　西吟
蓮花りすれく常ち蛙和　言水
田残蛍くくる蛙れかれば　北枝
いくもくく昔をる蛙れ　去来
朝つくの肩中の光る蛙那　乙州
弦掛れ日残常くくかれば　乙由
りあるる見手をの蛙ば　芦角
傘弦方をる会る来る蛙の乳　江戸　貞佐
ちりるる蛙くかれば　伏中　麻父

蛙子

地蛍出る

田螺

秋風 三義
風情 伝法
鶏山 光後
菜里
休亭 行法
砂蛙
蝶夏
未山 丹後
東陌
四睡

蛙の水さかうて乳蛙
育園や実弦張れて蛙
一四条岩木て鬼志毛蛙の那
立すれば水よ集るかな川ぶ
加へる子に川志れ己の如てさ
佛川や彩り岩毛蛙の子
蛙子や何面て志れ水の子
あくらんけや人弦蛙
あくさ穴よ立てや蛇の面
つふくと流ゆく蛇の田ゆ

蠶雑
毛角
十文 平後
如飛
山弦 伝法
千文
曹北
一遍 遍上
吉寿
東山

蛙
初鮒
鮒
飯鮒

蛙よ端あれる田ゆ
京改ゆ行田弦振ふ田螺ゆ
ぬゆ立の蛙を中ゆ田螺の那
あくくと変孔くと変田ゆ
流あくゆ岩と佛孔大ゆ
ゆゆ立て敷ゆ志ゆ田螺ゆ
蛙人毛て岩木ゆ天人て刀一把
ゆ鮒変独活よかく敷孔
毛鮒の中に犯ふゆこ孔
飯鮒の毛や孔く岩ゆき鮒

猫の恋

仮章魚や八道の品々吉野うち
猫の妻寵の崩をうち西ひろう
咲もりかり来て恋くるしや猫の恋

猫のこ笠飽の貝やかくおりし
孫このこ孫こ孫ようう味て寒こ
西方うり繁う育こ猫出居こ
うれ高うたてや猫の恋こ
うぬ〜形くまくふ猫のけうこ
二三日内ふ形こ孫こ表恋
日南ふも尾のすりこ猫出恋

恋や色よ出ろや猫出恋かろ
猫のこ孫こ嵐を雨こ孫こ
出ろ色ろ孫ろ猫の公出居出ろや
こうや海ぬ井ひ形耐猫のこ
おろ〜〜妻よ孫こ猫出恋
猫の恋信〜〜仮を喰よりう
孫もこく色こ孫ろ孫ろ種の恋
郭の妻こ城猫のこうしかり
産孫ろの西ふ孫ろ猫の恋
猫のこ孫色紙ふ人よ出こりう

麻の角前

仙孤日の孤より落ちて麻の角
やもくうれまよ落ちやと麻の角
忘れもしも身を悔てやあり角
角前くく三日月の宵麻少
はの三日月やもくも小麻少
麻江戸蛍こりう流の角
角前くくまりけく鹿角部
神山や一部の宵のさえのへう
雷雨もまれ出でりはもへく
かくもやはしえて初を取前

猿雛　武中
雲江　伊勢
卓伸
朱拙
蕉笠
魯九
蝶爰
去来
冬茶
秋水

初雷

梅

初雷の日もまれて法の赤さまれ
梅花や法ゆるるとなるとなる
紅梅やふ八法起さ八教仕為
梅雪や蛍も法の初出のく
くもいや句の事ふ山家紫
梅やりく法ゆ八教花て乳
黄雪やくもの孤のくれ
まれ桜八京の法くの好
咲くくく法の孤くくまれ梅

黄梅
初桜

毛先　玄足
知行　武蔵
浮仙
京子
以葉　摂津
布舟
冬柏　近江
芦水
京　知及
芭蕉

先つ[illegible]の蒼きをつとそ初さくら
ちる[illegible]の加[illegible]ゆ[illegible]の桜
[illegible]桜まこと遅くに咲ハしそ
[illegible]こ[illegible]ほけを初桜
[illegible]和歌やまとさくら
人[illegible]家もかく親し初桜
[illegible]て[illegible]に[illegible]桜
奥せ孫あ[illegible]彼岸桜[illegible]
[illegible]咲き[illegible]ひ[illegible]桜の[illegible]
[illegible]の枝やつ[illegible]

一笑　千那
仲秀　利雪
発句　乙州
治徳　文代
[illegible]　岩芝
出羽　風草
乙州

彼岸桜

糸桜

椿

糸桜能[illegible]
百[illegible]も[illegible]の[illegible]糸桜
雨の白[illegible]
[illegible]
云入[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

、　地坡
発士
芭蕉
迫江　曲翠
三秀
江戸　治逢
地坡
、　文考

さし木

接木

苗代

利牛　公来　近江 巨海　尾張 舟象　一笑　筑紫　芦丸　加賀　反考　丶　許六

春四十

苗代や東寺の塔の水の影

苗代や八ツ橋の下の蛙

苗代やいとこの水のすそ

苗代の毛抜よりあまる水

苗代や蛙ん〻と鳴く夕

苗代や旅うに乗る里の駅

時雨や義経ゆきくく泊り川

時雨や梨の湖の吹引こそ

小雨まで水口祭

稗下し

稗下し俵ゆりこそ小橋

近江 朱迪　紀伊 披　子爽　出泉　土佐 麦船　子羽　佐渡 荊口　武蔵 文竿　神儿　壬角

種こう
稚蓊
稚芋
畑打

稚漬ゝ漬はつ先や秋川ぶ　京　辨石
稚かゝや太神宮へ一はこゝ　上野　曉雨
麻蓊や笹ヨ瓣の付あゝも　伊勢　民古
稚まれや磨の外り雨もに　武蔵　芭蕉
たゝ芋や花のさゝら伏麦ゝり　武蔵　吟風
稚芋や植ゝ先ゝう芽ゝ天ゝ　太来
勅くゝ天ゝ畑ゝ男ゝ乳　扶風
ゆゝと乳鍬の光りや麦の秋　鈴坊
畑ゝもゝつゝ分の蒔や川向　加賀　乃露
ゝ打や麦の旅人

焼野
山焼
すゝき焼
の八ゝ
胡葱
葱の実

青打の付ゝ先や小田の氣とに　江戸　意程
山焼や小松の根ゝふ焼野ぶ　伊勢　石木
名ゝ刈焼ゝ張や風の来　安芸　樣雄
ゝゝや焼ゝ焼野ぶ　筑前　吟丁
雨ゝし山ゝ去ゝ山のゝ焼ゝ　水札
山焼ゝ焼ゝ焼ゝ焼ゝ焼ゝ　魚日
山焼や焼ゝり入日の郷ゝり　安芸　暮花
焼ゝ名ゝ義姫ゝ人ゝ山ゝ　伊勢　秋明
あゝ月ゝ夫ゝ杉ゝ焼ゝ白ゝ乳　伊賀　汀芳
焼の末ゝ夜森ゝ葱の実　伊賀　卓茂

独活

烏芋

古美

枝葉

吉加〻

秀弐拾〻ほどなる花さく実〻ゆ
尋ねや古家〻下の独活のゆえ
雑子のはたらく弐尺〻ばかり
古枝や根ばさへあるほ〻し
青の面ゆるや古家の長〻し
ほ〻し瓜和のまふ袖うれ
年古く仏の〻作やつ〻し
道〻兵たちもてもち枝葉〻
九の中ゆ〻そこのもし〻の杉かな
加〻葉や茅〻ゆ旅ゆえの声

永山
枝風
猿雑
尾張 蘭指
塩車
支考
千代
治位
近江 馬瓢
我黒

防風

蓮根〻

山葵

芋かぶら

蕨

今に天〻ゆ鼻ちもちもん春の〻
唐仏の根ゆ〻ちもち〻ゆ涙防風
ほ〻ゆ〻ゆ須磨の涙をさ〻れ
根ゆ手ゆ指ほ〻や春ゆ植所
泥龜の根と折りへてつ〻ひ〻
ひ〻喰ゆ追ゆ蕨の〻葉〻
もて〻浮〻枕や茅の〻ゆ葉
ゆ〻ひ〻ゆ花かゆ好きひ
ひ〻ゆ〻〻蕨地ゆ〻ゆ蕨ゆれ
数〻ゆ〻ゆ根ゆ〻ゆ出ゆ〻ひ〻

越前 徒木
紀州 素月
永 松山
支考
尾張 之角
紀来
三河 徙来知
之沖
由之
古芳

物春の蓋とり形〳〵に厳うれ　荒雲
仙人の碁を指さして厳ら　鑒雲
ま厳や笠とる山雲指ら　正秀
そつ〳〵ぜ高の梅ら咲き　黄山（未）
凡石や月ま越ま紅の梅ら　志山（伊勢）
たんぽや雪を下ま咲て　秋仙
敲ま や稚も一さ〳〵雀ら　鳥定（出羽）
ぜん原や糸ま〳〵ら〳〵伸ら　雲郎（上野）
菜の花や流も加つ〳〵ら水　言水
分ぶもや一本咲〳〵松の下　家周

春四十

菜の花

う〳〵草
菜紫
蕗〳〵英

菜の花や小屋ら出ら〳〵ま　史邦（尾張）
ま弥ぶれや板菓の去ま乃ら　長紅
菜の花や戸口乃ま出ら乃　嵐雪（近江）
菜のもや乃ま出乃屋の陰　越葉
分弥乃ま乃赫奕〳〵ち乃ま　挿居（尾張）
ま乃花や小家の蹴ま咲ら　以之（摂津）
菜の花の出ま寄ま入日乃　渟々（紀伊）
分の乃ま乃麦ま海〳〵ま乃咲　玄武
菜のまれや巣のま乃〳〵牛ま　蝶夏
強ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま　乃竜

大根の花

菊

海雲

苔

紫萬

あゝやはり大根の花のさくら色
葉の赤ちりのうゝ紅大根
いとゝ京咲てふ物も見わたせ
無き刺も仏ゆゑ淡の雨
蛍火の飛うたれひく海雲汁
姑婆の海の星やや海雲汁
大外紫や苔の一葉て
いとの雨のあ[illegible]
夕蛍見れば[illegible]
いとき白根や海雲汁

曽北
山嶺 アさん 紫雀
文考
泡浮
巴静
筑紫 韋吹
江戸 ほし
光丸
桃妖

春四十六

風帛ひのへてたる小川うれ
れ巾引ちぎりやぬ星の数
とらなる四五ちらす風帛
ゆくれやうれ苔のひらの
書見特我ゆ苔やこれ巾
清ちりて雨を対てや雨書
ふ機塔乳乳のきくいよ
吹ゆゝ[illegible]ゆ敬乳れ巾
たゝ泳てもられ京てひらのほう
糸引ちぎ日もかゝるや風帛

春四十七

舎那 風園
三河 桃先
秋の坊
筑紫 京吾
尾張 理光
嵐技
尾張 千代
京 阿富
用舟

三月

上巳の吉

曲水

雛

桃の花八重の吉匂ひ　方山

一日も桃あるは海もさぞ那れ　宰陀

曲水や筆の流れて御溝水　角上

川下て幸を重ねさせ給ひ　義笠

岩よ三月弦ふくこと　希因

曲水て桂流れて山路うれ　大光

殺ぐとうて孫ひまきりう雛の新　仝角

雛の拍高獲ゝ海しゝ　〃

夷風てりこかへ雛の駕ゝ流　萩子

花の子よ海をもやる雛乳　如行

姉妹京肩地絵ゝ雛の屏風ゝ　斜嶺

書板りのまゝ雛の屏風ゝ　風國

振袖や下座よりもるもの雛　太未

雛の口仮つゝ分くゝ星よきり　天弓

雛立ゝく乃よかるや姫の子　アん

乳りの一仮ゝ雛まつり　嵐河

抱いて女中乳ゝ雛乳　許虹

却ゝ男女ゝ女や雛ひゝ那　乙吠

草の餅

嵐雪　乙由　近江　仰適　理然　馬六　京　七哦　但馬　己柳　京　一桂　之角

柳つる
柳太刀
鶉合

春四十六

拳白　江戸　婆公　英流　君望　芭蕉　玄来　如泉　風井　木因　仏我　治徳

土佐の海硯飯
壬生念佛
御身拭

花の名も土地も見て居る汐干かな　近江 弌木
新田にあれて中りし出汐入れ　峯白
冬からもはや松原出て汐干かな　乃露
入もせぬかくくとゆる汐干かな　兎士
白浪の人を追込む汐干かな　筑前 杏雨
青しと見えてへる汐干かな　備前 仙李
硯とる法師もまれて土佐の海　江戸 梅川
雲浪のりしるまゝや壬生念佛　京 太祇
ちれる花の面向もあろう壬生念仏　近江 菊二
栴檀の香らおさふる嗚義の冬　陸奥 白扇

峯入
永き日

峯入の京も出て雑の旅路かれ　宗周
峯入や敷き出る錫かなに　立方
永き日や子等にあいて夕鳥　江戸 道春
あかき日や使も先木のよはる声　飛水
職法の衣もたるる日の長さ　許六
永き日を待つて行く日と長き哉　卜枝
永き日や鐘とつれ行く松風の声　朱廸
あかき日や世界しまして残の波　素丸
長き日やたがふれ次第の鐘かな　文熹
花借して見るなれ春のくれ　阿誰

春の日

春雨

永き日や谷の竹飛ぶ雲の裏　下飛　松路
春の日や長き仏の丸飛ちれ　尚志
さらさらや菜の末畠の小法師　正秀
春のうやあくび出てる新内　加賀　見風
ぬれうれし春の雨　玄旨
春雨や蛙の巣つくふ振の濡　芭蕉
拍子ハさよ子の花ちるや春の雨　荊口
春雨やうくひす来ほの夜長の宛　枳風
ちる雨やぬれ手ほの夜長の宛　文章
春雨や火燵表へ足を出し　未山

月見の日城や長屋の雨　支考
仕舞ぬ雨あくるあくるあん日次うれ　玄角
ぬるるぬるるぬるるぬるる春の雨　一笑
ちる雨や春の公家かうれ宜　友元
ちりちりと雨もくれ春や春の雨　木導
傘とちらくはくうや春の雨　句宜
横ちりの松直ぐやちるの春雨　林風
柔よ近江の長雨ちる春雨　乙由　かが賀
春雨や菜も根くくれ菜ばた　桐之　越才
春雨や春の公家の雨　季布

別集

春雨や四季之集のやう木履　北溟
閑性の湯より出るとて　素風
蛙子くさらめぬ雨の雨　杜義
春雨や笑ひ〻ぬ地さくら　千代
夕飯を喰て出まゐり春の雨　紀伊　梅花
春雨や出にくまてる海と雲　陸義　文竜
一日も内は居ることや雲の雨　蝶夏
春の〻眠さそうや春雨　出羽　惟中
雨〻時雨よくて火燵と寒さうな　調志
雨〻病よりしかまきまのふる雨　子郷

田園雑成

郭公の巣
郭公の巣
鳥帰る
雲入る
麦熟
午子る

賛ゝり海と色の尺ゆうゝ　入楚
山ゝ表ゝ巣ゝ〻〻ゝ　茂秋
郭公巣ゝ〻ゝ　北枝
麦ゝ〻ゝ去かゝ〻ゝ　木芦　紀伊
雨加へ表ゝ雨ゝ去ゝ　苔峨
鳥雲ゝ餌ゝ一人の山ゝ　之角
雲に雨ゝ伝ゝ尺ゝ這入ゝ　朱拙
秋の麦尺ゝ峠ゝ麦ゝ　万子
峠ゝまゝ種ゝ出ゝ麦熟　己静　熟成
你山路ゝ伝ゝ海ゝ午子る　万湖

樓貝　三子風
櫻舶　西鶴（浦元）
波の花ちらでや磯のさくら貝　休和（尾張）
ちりころやゆの石の硯のむさくら　李巷
樓舶笑ひ　琴風
一舶ゆり樓うくかと笑ひけり　康吹（加賀）
蓑の水よ秋の木ぶかと松鶴　嵐雪
あまさもあまさ夢の紫重ね　翠樹（但馬）
あくれあるる蓑の蔭ひやうの梁　玄哥
四美しかたちちくさ小舶の船　圃水

舶の子ばかりすたれまし陸の書　古芳
乃舶の一舶ゆりたるなる　才麿
滝壺ゆり今ぞ小舶ゆれ　為有
ちぢれ小舶ゆれ小舶ゆれ　東岱（伯耆）
くれ舶や松ゆりひびくと入日哉　乃見
ゆ庭ゆ舶ゆりひびくと入日哉　鳥仙
ゆ庭の舶ゆりひびくと入日哉　風休
炉蓑の笑ひ　万子
炉蓑ゆ蓑の笑ひ　圓入
炉蓑や蓑の下君節舶ゆ　意程
蓑ゆ蓑の蓑ゆ蓑の蓑ゆ蓑ゆ蓑ゆ　魯良

汲舶
炉蓑
蓑子

桑摘
若和布

添みやら市に路をとりて蚕かれ　若狭 味雨
寐て起て喰てもまた桑子かな　越中 古足
下蔭の道ありしこく蠶の那　江戸 露光
あくさく蚕飼の家路を海くら　青雨
三月や冬の京屯の桑一本　文季
桑はゝや物かけ丈ともろゝら　美濃 千川
桑つみや枝より夕日のあつまりぬ　謙美
若和布濡れぬ洪水初まても　登老
乙姫の手つく和布我右まひろ　涼菟
一雨を和布ありふ正き日和かな　出雲 一葉

浮世初
桃

う娘子や布くも遠ふせ所　江戸 竹波
咲けしと白ふて見し桃の花　木因
餅喰ぬ旅人あかしと花の花　文考
此桃や雲も茂る水煮上　桃隣
麻の種毎年蒔る桃の花　利牛
桃さけく川より出るや桃の花　涼菟
大名跳て家子人見し桃の花　嵐彈
日すく路を閉さて来るや桃の花　野坡
垣根りいさ古て桃の咲つき包　苔本
桃さくや畑の礼乃据へし先　之雪

花

かつ咲やは梅の花ちるまで　秀北
鶯居起り散り桃の花　春波
大冬のこまく赤し梅の花　十磨
雪花ゆゆしうもくのむ　文素
鶯鳴けさの朝の林う那　信徳
一僕と保りくあり花ぶり　李吟
花ちるくる軒ぶ八分ち　京　重軌
忍あ梁て犬のそこ又里ぶ分　常矩
花山や伊らてり居出所　我星
笑うに居かつ忍の数うに　彩葵

春日九十二

花の雲信濃ぶ上飛ぶ俄ぶ　芭蕉
京美ぶ花ぶの花ぶ七ぶ情　、
梢ひ所ぶ飛人ぶ忍ぶ　聖坡
ぶ迄ぶ忍のぶうやき一人　涼莞
花ちやぶ忍ぶ既ぶ合ぶ　太素
立枯の鶯ぶ多ぶ忍ぶ中　、
竹屋ぶ岩ぶかけぶ花野ぶ　丈ぶ
啄木ぶ千ぶ枯木ぶ屋ぶ中　、
花笑ぶ鶯ぶけぶ老木ぶ　木ぶ
峯の雲ぶ八ぶ文ぶ　野水

花ゴ郎かろくまてらけ酒の泡　嵐雪
我まのまつ高くしたる蓋　智月
朧風をこそ高まれ村うれ　云秀
花の香ゆ高ひろ〳〵寺山　丶
妻恋の猫まへ出てしたゝる　許六
寄合の舌よのもくや花の雪　半残
涼の雨小祝押くて帰るや　冰花
あつくの乙鳥ありしら花曇　史邦
花さらす大阪中りあらし　枝風
むしぬ乃くく家あせ毛軟ん　青亜

加子居子も大切かゆを花ゆ張　惟然
一ゆ城ゆ高くくと云ふ人れ　浪化
ちゝゆ水をのもゆ城の上　京暮四
腐ゆ上に祝ゆ会く云ふ人ゆ　ゆん
鬼の山ゆ高人や踊ゆ人　賀友尚
花の中ゆ高ちゝの山も氣ゆ　雨青
夜ゆ泊ゆ高ゆ高の人ゆ高ゆ　晩山
花の雲ゆ高ゆ高ゆ入日ゆ　井七
松風ゆ高ゆ高ゆ高ゆ高ゆ　巴風
乞食ゆ高ゆ高ゆ高ゆ高ゆ　吾仲

櫻

日ちうやひく〳〵ちくさの山
花さかぬこの木陰よあれ〳〵白
ひさ折て人ぬしせん山さくら
木のもとハけふ絵もかくるれ
人〻ねぐ〻日暮の山櫻
ちりぬるを飛ちやひらやら櫻
明暮や櫻さく先ゑ山ゐ〳〵
益ゑりと云ひくの櫻うれ
元ちうれさくんの一き櫻〳〵
名の分ゑ伝かてふ〳〵山さくら

素丘
武州 荷翠
江戸 一洪
芭蕉
来山
京 心素
千角
去芳
晩山
湖春

吉野の人〻櫻ちうん櫻
櫻さくや加ゑ牛ゑ白ひさ
夢ゑ加ゑ櫻ゑ扶傘ゑ〳〵山さくら
ひく敷くの人ゑも山櫻
風ゑの国守ゑ〳〵山さくら
我咲く櫻〳〵歌く花戸櫻
一枝ゑ折ゑ〳〵〳〵山櫻
伐ゑ成人の井〳〵ゑや山ちら
山さく風後よ〳〵戸ゑ流〳〵
ちん和と笑ひ半〳〵ちうや櫻

文子
江戸 洒考
不卜
一有
北枝
支考
尚白
賀 徐寅
弥子
乙史

遅桜

うらさの道も風や山さくら　雪山
やま桜何処まで心ぞ見れし　兎士
みしへて人の春居てや八重桜　希因
遅き似りみつけりや山桜　麻文
ちるへきかなも山路や遅桜　淡荒
万日の人居ちらしてや遅さくら　加賀 文角
ちらうと思ふ人も色を遅桜跡　朝宇
跡盾の雨くもりて遅さくら　伊勢 柴宇
鶯や居きそかけよる遅桜　英浅 麿仙
遅れても人をも笑れそそ遅く跡　加賀 宇中

梨花

海棠

たそかれも遅しはつ有らく桜心　五筑
葛木にも一思案あり遅桜　忘广 九夕
忘れても妾り似ける梨の花　許六
尾の身も月先さきし梨の花　文彦
梨花さくや明日とうる美麗　吾仲
捷夜のつく枚はりてれのむ　摂广 以友
曲らん枚出しまや梨の花　綠爱
かなしや咲くちぬまで一晩で　京 重頼
海棠や見紛ふ子の顔ほ色　希因
海棠よりも夜が大かく眠りから　尾張 善宗

海雲や高揉うつる鶴の尾
かいこゝやゆ彩ゆ彩もなつかう
現たくて爾て落ゆ山
凡ゆ尺くを辛夫のむ
咲立て栄の初ぬや礫砧山
初うゝ女松生て上つゝ
玄黒川焼形て手り礫砧
山雪や山ばゝうけり尾のひぬう
山まゆに花咲うゝつゝ
日の岡と越て黒ゆ礫砧

辛夫
礫砧

江戸 這平
肥前 枕山
上毛 巴水
羽長
文章
尚白
伊賀 蕪休
拙丸
荷弓
希岡

山次

香久山は伊達ゆ拍子つゝ
山ゆ紅や宇治の焙炉の白ゆ時
山ゆ水や垣ゆ垣ゆ蕨一束
屋ゆ鳴きや人ゆ拍子刈の上
山次や角にひゝを色ゆ麦
山次や立たゝ落ゆ花の水
やゝゆ紅や前掛流ゆ宮の川
山ゆ水や東の蒼のひゝくまで
屋ゆ山ゆ秋ゆて萩の咲伝
山次や歌後ゆて雨ゆ降て来

後の山 金竜
色蕉
岡指
三の 白雪
悟然
半残
句空
ひん
拙化
希内

木瓜の花　　瓦筑

沉丁花　　可拾

木蓮　　猿雉

赤蘭花　　若文

仙蓬萩　　雲賢

庭梅　　子那

　　尚白

　　跨山

　　秋九

春五十七

あをひのき　　赤西

藤坊の花　　貞位

赤の花　　翠西

李の花　　琴路

小米花　　孔雀

梅の花　　山夕

連翹　　湖春

馬酔木の花　　麦由

　　芳妍

今法
柿の花

山里や柿ありがたく今法めし　日向　儒雨
嵯峨の時雨ふる時の柿の花　武蔵　伯兎
柿の花蔦の葉ちる人の里　馳雲
人の里求る人をすく柿の葉　文素

忘れ
接て手
九物手

咲捨て山も分入さくら草　拓ア　素水
見石り砂ふる伽藍や九輪草　尾張　仙茂
九物手一ア人あら長く寄り　信濃　星桂
手ゆ下ろ苟ふる乳ふる夏の花
笠の端ゆ星ふる如ぬ乳花　近江　蕉志

乳ふくく静ふる夏の花　扶風
義時や種麦よりく蕉の花　前ロ　白雪
くんふる一時をもや如ぬの花　伊勢　朱友
匍匐ふり方しゆ夏の花さら
蕉の花乳ふ夏ふ夏ふく散ふ花　武中　雨村
ちらゆ北ふゆ松ふ夏の花　天満　僅考
紫の乳ふ乳ふ乳ふ蕉の花　備前　雲葉
夏の花ふ夏ふ夏ふく義のあ乳ふ
夏ふ夏ふ笠ふ夏ふ夏の花　江戸　巴静
白蕉ゆ乳ふ乳ふ次ふ夏の川　江戸　巴人

菫

拘杞子の垂れ下がる長い房の花
何ぶんはうつくしく古くの菫より
山路来て何やらゆかしすみれ草　芭蕉
蜂の子の尾のやうに伸る菫より　秋色女
鬼灯の実に赤みをすみれ哉　その
古き世はやうに咲く菫哉　芝雀
こぼれて咲く花菫うれ　上野女 一茶
種とぶく花の菫哉　椿子
咲り山と書る老てや菫花の種　吉仲
咲ぬりの泥ぐるく菫哉　日向 琴木

茅花

右之　越後
志ほ
老蕉

五形花

秋色　女
その
芝雀
一茶　上野女
椿子
吉仲
琴木　日向

拘杞子

五加木

桑摘

はつ春の衣さらはる又架水　江戸 凌水
花菖蒲ひけてそこふる桑つみ心　京 古芳
脚くさ戦去無くらわかて桑摘心　何扣
変加こと影木保ぞ又桑はこ心　冰花
姑君仇なそ乳ぬ桑つみ乳　秀士
桑摘の一桑このさ切桑摘乳　芝雀 京吹
旅人の一桑このさ切桑摘乳　杏雨
木くれ嫁ぞみくれ生桑摘こ　京 文下
手はち先や拘ひくもる桑つこ　似笑夢

菜摘

春菊

金銭花

水仙きんぽう

菜植

さのゝ妻

帛杖

嵐休　布丹　松路

尾張　生林

肖山

永　朋水

伊賀　氷園

鳴休

雪北

春六十

帛杖や阿波の内侍ゝ

三菜荷

二葉ゝゝ白ひ出ゝ三菜荷

幼ゝ花ゝ三菜髪

髪髪

丁子手

青麦

菜植ゝ丁子手

菜植ゝ麦の穂

青麦や伊勢の國の郡司

麦ゝ初風ゝの笠の

東陶　伊賀

杜若

伊賀　俳諧寺

一路　上野

梅者　越後

寸馬

仙化

弁七

安芸　呂舟

吾東

三月大根　北鯤（江戸）

大根花の三月さへ〜〜〜〜
ありけりさへ三月大根花の
ちあるこの中うゝ寒〜三月菜　可嶺（江戸）　兎孫

三月菜　正秀

金風花　文泉（伊賀）

さゝ子菜　射江

拘脊　芙雀

芙蓉　文秀

若荷仲

裏山

拘脊の孤帽子ぬく日和哉
芙蓉や種の俵の写らう
仕寄の玉撫の撫り撫り蚤やめゝう牛
蝶を先へ出さりやゝ山

春六十一

春野

男ゐ〜一夜寝てゝん裏の山
寄抱くゝ絵あらくや春野山
砌清吟あ仕裏の秋ちゝ人や
女さへ一寸肩ぬく裏秋ゝ

有壊（近江小野）　許六　岩翁

木瓜あさゝ抜ゝて乃ゝく秋八ぬ
春のゝやゝ引まへの手に加ゝ少ん

山居（紀州尾）　羽石

春の暮

赤橋のいゝゝさゝ〜あゝ裏の暮
板ひゝ引ゝ寝くれぬ夜ゝて裏暮
あゝ月の月の月に春のゝん
花ちゝ、秋屑変や裏の暮

山居（尾張）　重五

月水（武蔵）　桃古

春

芭蕉
文考
山川
梅妖
文孝
舟水
李由
林夕
平良 恋心
定学

蓑笠

三月尭

宗端
俊
也有
江戸 文国
摂 山李
伊勢 孤東
等山
鶴夷
秋之坊
松風

三月と文よ書のを忘れ
春も末ふ糸の解るやれ中　去来
以之

巻六末